

化粧文化研究者ネットワーク研究会報告

第53回「角層から得られる皮膚情報」

日時：2019年12月7日(土) 14:00～16:30
 講師：平尾哲二先生（武庫川女子大学教授 薬学部
 健康生命薬科学科 化粧品科学研究室）
 場所：資生堂 汐留ビル 1F PIT

長年、角層研究に携わった平尾先生をお招きした。「角層には肌の貴重な情報がたくさん含まれている」と先生は言う。講演では皮ふの構造・役割、角層とは何か、スキンケア化粧品の有用性評価など、基礎から応用までにわたる専門的な話題をわかりやすくご説明いただいた。角層細胞はタンパク質の袋（CE）で覆われている。良好なバリア機能のためには、成熟したCEを土台として細胞間脂質がきちんと配列することが重要だという。平尾先生はCEの成熟度によってタンパク質の状態が異なることを見出し、成熟度を評価する手法を生み

「オンライン研究会」報告 2020年7月4日

新型コロナウイルス感染拡大により、Zoomを使ったオンライン研究会となった。参加者は世話人（9名参加）に限定し、テーマも「パンデミック&オンライン状況下における化粧と身体ケアをめぐる近況報告」というタイムリーなものであった。まず北山晴一先生から、「新型コロナウイルスとBeauty（業界）」のトレンド予測についてトピックスの提示があったのち、参加者が話題を提供しながら放談を展開した。

参加者からは「マスク状況下での口紅と口紅マーケットについて」「マスクと肌荒れ」「抗菌作用と化粧品」「マスク顔の



出した。また、肌の透明感において、角層タンパク質の変性に関与していることも解明した。

こうした研究をベースに、平尾先生はそれぞれの現象に有効にはたらくスキンケア化粧品の開発も手掛けられた。実験手法を開発しながら原因を追究する研究者魂に触れ、知的な興奮を掻き立てられた濃密な時間であった。（高野ルリ子）

日常化の中で自分の顔（口）を見せる／さらすことの意味の変容」「BLMと『美白』化粧品の今」「ニューノーマル時代の装い」「オリパラ延期と温泉タトゥー問題」など、多岐にわたった内容が話し合われた。

3月、6月の研究会が中止となり、開催方法を模索した結果のオンライン研究会だったが、研究会に先駆けて開かれた世話人会では、今後の具体的な予定も決定した。第2波の到来も懸念されるなか、従来の形での研究会開催はまだ難しいが、オンラインも柔軟に活用し、化粧文化研究者ネットワークの歩みを止めないようにしたい。（米澤 泉）

第25回日本顔学会大会（フォーラム顔学2020）のご案内

■大会日程：2020年10月3日（土）、4日（日）

■参加費：無 料 ※コロナ禍を考慮した特別措置

・大会 長：青木 義満（慶應義塾大学）
 ・実行 委員長：高野 ルリ子（株資生堂）
 ・プログラム委員長：渡邊 伸行（金沢工業大学）

・広報 委員長：藤原 孝幸（北海道情報大学）
 ・実行 委員：瀬尾 昌孝（大阪工業大学）
 中洲 俊信（株東芝）

★ オンライン開催 ★

スケジュール（予定）

● 1日目 10月3日(土)

10:00～	開会 開会挨拶（学会長、大会長）
10:30～	口頭発表1（4演題）
11:30～	企業展示、ポスター、作品紹介
12:00～	（昼休み）
13:00～	ポスター発表1・作品展示コアタイム
14:10～	口頭発表2（6演題）
15:50～	【特別講演】 林 伸彦氏（株式会社NHKアート） 『チョコちゃんに叱られる!』の作り方 ～クルクル変わる表情の秘密～
17:00～	総会
17:30～	イブニングシンポジウム

※2020年度総会は初日17時から行います。会員の方はご出席ください。

※詳細はフォーラム顔学2020ホームページをご覧ください。http://www.jface.jp/forum2020/

● 2日目 10月4日(日)

09:50～	開会
10:00～	口頭発表3（5演題）
11:15～	企業展示、ポスター、作品紹介
11:45～	（昼休み）
12:45～	ポスター発表2・作品展示コアタイム
13:55～	口頭発表4（5演題）
15:20～	【シンポジウム】顔学のトレンドを探る 工 学：瀬尾 昌孝氏（大阪工業大学） 心 理 学：中村 航洋氏（早稲田大学・学振） 美容分野：松下 戦具氏（大阪樟蔭女子大学）
17:30～	閉会



メンバー募集中!

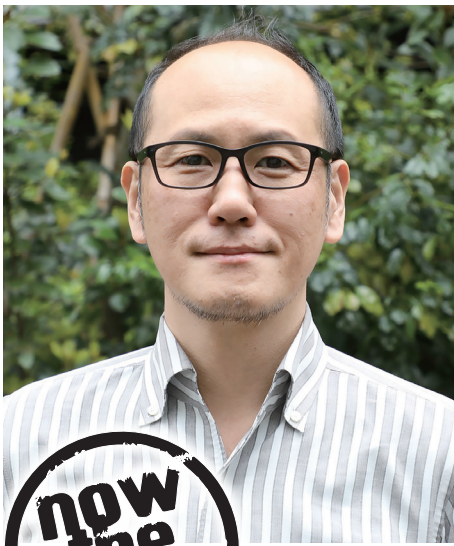
J-FACE NEWS LETTER

日本顔学会ニューズレター 73号

11 SEPTEMBER 2020 Vol.73 http://www.jface.jp

Contents

- P1. Now the Face
- P2～3. 日本顔学会若手交流会 活動報告／顔学オンラインサロン報告 第1回～第5回／図書紹介
- P4. 化粧文化研究者ネットワーク研究会報告／第25回日本顔学会大会（フォーラム顔学2020）のご案内



第55回 今、感じさせる
 KAOの人物を紹介する

株式会社NHKアート 総合美術センター 林 伸彦 さん
 デジタルデザイン部 CG映像担当部長 Hayashi Nobuhiko



「チョコちゃんに叱られる!」NHK総合／毎週金曜 午後7時57分／再放送 毎週土曜 午前8時15分

【プロフィール】
 1980年代後半からCG制作の業務につき、テレビ番組、映画、CM、イベント映像、ゲーム映像など多くの作品に参加している。現在は主にNHKの番組のCG・VFX制作を担当。スペシャルドラマ「坂の上の雲」、NHKスペシャル「1914年の東京」、「戦後ゼロ年 東京ブラックホール」ほかコスミックフロント☆NEXTなど多数。

フォーラム顔学2020で特別講演をいただく、林伸彦さんにお話を伺った。林さんは、NHKの人気番組『チョコちゃんに叱られる!』でCGプロデューサーを務める。本取材はコロナ禍のため、オンラインで行った。菅沼会長と興水前会長にも同席いただいた。

着ぐるみのキャラクターが愛くるしくも、時に小生意気な表情を見せる。口もとを尖らせたり、眉をしかめたりと、なぜあのように柔軟に細かい動きができるのだろうか。アナログ然としたキャラクターの背景には、たくさんのテクノロジーと人の経験則が詰まっていた。

チョコちゃんの表情は、スタジオで撮影した後に、CGで置き換えをする。番組制作側からのオファーは着ぐるみが喋っているように見えない、ふつうの番組のように撮影したいというものだった。現場では6、7台のカメラを使い、異なるアングルから同時に撮影が行われる。どのカットが使われるかはわからない。チョコちゃんの顔に共演者の身体が被ることもある。こうした状況をふまえた現実的なソリューションが、後から表情を置き換える、という手法だった。

チョコちゃんの表情は、目の位置、まぶたの動き方など60余

りの制御ポイントを操作してつくられる。組み合わせのパラメーターの蓄積や大きな制作ルールはあるが、表情データベースの類は作っていない。逐次、会話の内容や身体の動きに応じてつくるといふ。どうすればチョコちゃんが可愛く見えるのか、人間はこういふときにどんな表情をするのか、チョコちゃんへの愛情とヒトの表情に対する観察眼の蓄積が制作の源となる。とくに注意を払うのが視線の送り方だそうで、ゲストの動きや立ち位置を見ながら合わせているという。

さらに職人的な追求がある。発話の口の動きを合わせるためには、台詞の音源だけあればよいのだが、林さんたちは収録現場の環境音も活用し、現場の雰囲気も加味して表情をつくるという。つまり、コミュニケーションのリアクションが入ることになる。あたかも自分自身が反応しているかのように制作する職人魂とチョコちゃんへの愛情が、豊かで自然な表情を生んでいることを強く感じた。

制作上、すごく困ったことは？という興水先生の質問に対して、実物と鏡に映ったチョコちゃんに対応する2倍の苦勞と、マスキングの話をお話してくれた。チョコちゃんは「実在」しており、共演者も着ぐるみのキャラクターに慣れている。

それが故に自然にチョコちゃんに絡み、身体の一部がチョコちゃんの顔にかかる。その際にはCGをのせる前処理として、その部分に対し1フレームずつマスキングしなければならない。モジャモジャのヘアスタイルの役者さんの頭部がチョコちゃんの顔にかかってしまった際には相当な苦勞をしたという。だからといって、共演者の動きを制限せず、CG技術で対応するという考えをもって取り組んでいるそうだ。チョコちゃんの制

作技術は業界でも着目を集め、2018年の日本映画テレビ技術協会の映像技術賞を受賞した。

フォーラムでは、チョコちゃんの表情をつくるシステムの解説や、テレビ放送ゆえの手法選択と工夫などをお話くださるそうだ。きっとステキな映像も紹介して下さるだろうと期待が高まる。林さんの講演は、初日10/3(土) 夕刻だ。みなさま、どうぞお見逃しなく。(高野 ルリ子)

日本顔学会若手交流会 活動報告

第20回定期交流会

2019年11月24日に、記念すべき第20回定期交流会が東京大学駒場キャンパス・アドバンストリサーチラボラトリにて開催されました。今回はフォーラム顔学2019で原島賞を受賞された東京大学の向井香瑛さんを講師に迎えました。向井さんの「一緒に揺れる顔と顔 ー対面時の二者間協調ー」と題した講演では、様々な実験に基づき、うまく協調する際の両者間の要因について検討しました。その結果、二者に明確な上下関係がある場合には非意図的な運動での協調関係も顕著にみられることなどがわかりました。向井さんに続き、若手交流会のアドバイザーである原島先生より第20回定期交流会に寄せて、これまでの日本顔学会の歩みと若手に向けた

第21回定期交流会

2020年7月5日、コロナ禍の影響で延期された第21回若手交流会はオンライン上で開催されました。これは若手交流会初の試みとなります。今回は東京大学大学院の劉沫好さん



顔学オンラインサロン報告 第1回～第5回

「顔学オンラインサロン」は、コロナ禍で外出や集会がままならないこの時期に、学会から会員の方にできることとして企画されたものです。オンラインツールZoomを活用し、毎月第1、第3火曜日に開催しています。ここでは5月の初回から7月上旬までの5回分までをレポートします。

○第1回 2020年5月5日(火)

話 題：「和顔愛語(わげんあいご)」

提供者：日本顔学会会長 菅沼 薫 氏

オンラインサロンの皮切りは菅沼会長のお話で、要旨は以下のようなものでした。

笑顔は施しです。「大無量寿経」に「和顔愛語」という言葉があります。微笑みの表情(和顔)と心のこもった言葉(愛語)は施し(布施)であるという仏教の教えです。施しとは見返りを求めるものではなく、功德をつむ行為として自分の心から喜んで与えていくもので、慈悲そのものといわれます。

これからオンラインサロンで、顔についてみなさんと考えていく上で、この言葉をまずご紹介したいと思いました。笑



メッセージを併せた講演では、今後さらに顔学の面白さを広めていくにあたり若手や若手交流会に向けられた大きな期待が寄せられました。第1回目の定期交流会から、ちょうど7年経ちました。これからも自分たちが面白いと思う顔学を発信していきたいと思います。

と、お茶の水女子大学の石橋美香子さんを招き、顔に関する研究発表とディスカッションが行われました。劉さんは絵文字について焦点を当て、使用されている絵文字の意味合いと実際の感情の関係性について分析しました。その結果、絵文字を使っても、対面コミュニケーションと同じく対人社会配慮が生じることがわかりました。石橋さんは保育士の視線情報と仕事の効率・質との関係性について行った研究を紹介されました。その結果、熟達者は様々な部分を見ているということが明らかになり、保育の熟達者の凄さと大変さを再認識する機会となりました。今回は初オンライン開催でもあり、不慣れな所もあったものの、多くの参加者の協力により、無事に終えることができました。まだまだコロナが続くと想定している中、次回もオンライン開催を予定しています。(徐 貺哲)

顔は周りの人を幸せな気持ちにさせますし、それが反射して自分自身もまた幸せな気分になってくれます。

○第2回 5月15日(火)

話 題：「美女と美男のコンテストの歴史」

提供者：日本顔学会元会長 原島 博 氏

原島元会長は明治から現代までの美女(と美男)のコンテストの興味深い歴史を中心にお話され、最後はミスコン批判に関して、顔の美を探究することは差別なのか、という問題提起をされました。以下にその一部を記載します。

明治24年(1891)、浅草凌雲閣で最初のミスコンが開催されましたが、対象は全て芸者でした。明治40年(1907)に初めて一般を対象としたコンテストが、米国ヘラルド・トリビューンの「世界美人コンクール」の日本予選として行われ、本人に無断で応募した学習院生徒の末広ヒロ子がグランプリを獲得しましたが、学習院は退学処分となりました。

明治43年(1910)には美男子コンテストが「日本を代表

する明治の真人間」を求めるとして企画されました。美男と美女では期待する内容に差異があることが印象的です。

昭和に入るとミスコン・ブームが起きましたが、戦火が迫ってくると顔かたちより健康的な「翼賛美人」が推奨されました。戦後になるとミス・ユニバース世界大会で伊東絹子が3位(1953)、児島明子が優勝(1959)します。

ミスコンはさらに普及し大学祭などにも広がりましたが、やがてミスコンへの様々な批判が起こりました。本来は多様であるべき美を特定の価値観で優劣をつけることは差別ではないかという問題です。顔の美を探究することが差別なのか? 顔学とも関連する大きなテーマです。

○第3回6月2日(火)

話 題：「画像研究50年without/

with 顔学(会) 顔画像研究35年」

提供者：日本顔学会前会長 中京大学・YYCソリューション 興水 大和氏

興水前会長は、医用画像の研究から産業画像の研究へ、そして顔画像の研究へと進んでこられたご自身の履歴を紹介したいと、学位論文や量子化(特許)研究などの詳細を交えてお話されました。以下にその一部をお伝えします。

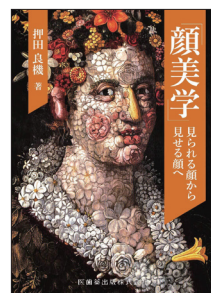
似顔絵A I ロボットPICASSOの原理は、「似顔絵Q=本人の顔P+d・(P-平均顔S)」です(d:誇張率)。つまり本人の顔の平均顔からの逸脱部分を誇張(デフォルメ)したものが似顔絵です。フォーラムで複数の似顔絵作家に私の似顔絵を描いていただきましたが、まさに「そっくりの科学」だと思いました。

顔画像研究を顔学会と共に深めて行くことができたことは幸せでした。私にとっての顔学は、画像研究の二つの科学(物質科学と記憶科学)の違いを炙り出す初舞台でした。

ベルグソン『物質と記憶』に出てくる「筋肉努力」(意識と身体の関係)や、デカルト『方法序説』の「魂、精神は身体を根拠としない」などの哲学的考察、そして『論語』の「子曰く、如之何(いかに)、如之何と曰わざる者は、吾(われ)



図書紹介



顔美学
一見られる顔から見える顔へー
押田 良機 著

ISBN-10: 4263461460
ISBN-13: 978-4263461464
発 売: 2019年5月
定 価: 3,800円(本体)
発行所: 医歯薬出版



美しさと魅力の心理
三浦佳世, 河原純一郎 著

ISBN-10: 4623086593
ISBN-13: 978-4623086597
発 売: 2019年10月
定 価: 2,000円(本体)
発行所: ミネルヴァ書房



可愛い戦争から
離脱します
整形アイドル轟ちゃん 著

ISBN-10: 4344035550
ISBN-13: 978-4344035553
発 売: 2019年12月
定 価: 1,300円(本体)
発行所: 幻冬舎

如之何ともすること末(な)きのみ」という言葉に励まされて今日まできたわけです。

○第4回6月16日(火)

話 題：「きれいの歴史と生活文化のこれから」

提供者：花王(株) スキンケア研究所、日本顔学会理事 今井 健雄氏

今井先生は、文明と水の関係に焦点を当て、「きれい」をめぐる世界と日本の古代から現代までの歴史を、詳細なデータをあげつつ概観されました。以下はその要旨です。

文明は水のほとりから始まりました。古代の人々は、恵みと災害をもたらす河水を神格化していましたが、清潔を好みいつも沐浴をしていました。また、身を清めた後には、肌に香油を塗り化粧をしたといわれています。

日本でも古より水を生命の源としてとらえ崇めてきました。湿度が高い日本の風土において、人々は身体を水で清めることで心身爽快になるとともに病を鎮めてきました。このような背景から、日本文化には水が宿り、日本人は清らかな生活をいつも願いとしてきたと考えられます。また、身体清浄だけでなく、記紀・万葉の昔から、洗濯や化粧整髪に関する記録も残っています。

このように生活文化はきれいの歴史とともに発展してきました。きれいにまつわる世界の清浄と化粧の歴史、特に清潔を好み、新型コロナウイルス禍も乗り越えようとしている日本人のきれいな生活文化が、どのように発展してきたかについて考えていきたいと思います。

○第5回7月7日(火)

話 題：「ストレス解消笑顔レッスン」

提供者：フェイスストレッチング協会、日本顔学会若手交流会副代表 牛山 園子氏

牛山先生は2012年から今日までの若手交流会とフォーラムで、異分野の若手研究者と実践家が顔学の面白さを広めている様子の紹介からはじめられ、当日の参加者へのフェイスストレッチングの笑顔の練習指導をしていただきました。以下はその要旨です。

顔にはたくさんの表情筋がありますが、これが衰えると笑顔がぎこちなくなるので、顔を動かすレッスンが重要です。これまでフェイスストレッチングで笑顔の練習をした方へのインタビュー結果を紹介しながら、実際にみなさんにレッスンをしていただきます。小頬骨筋、大頬骨筋、眼瞼筋のエクササイズと、笑顔になれる「ウンパニ体操」を、資料と画面の見本を交互に見ながら行います。ということで実技を伴う楽しいオンラインサロンになりました。(城戸崎 雅崇)